

段階	はたらきかけ	思い・考え	子どもの行動	ゲームに対する技能への思い
	技能習得のための手だて	学んだこと		予測されるドリル
出会う	ユニホッケーのルールを理解できるようにルールを説明した後、繰り返し試合を行う	Gボールでは、新しい動きをつくり発表する楽しさを知った	ユニホッケーとはどんなスポーツかな。ゲームをやってみよう (1~3時)	動きながらパスをしたり、パスを受けたりすることは難しい。もっとボールをコントロールできるようになりたい
深める	作戦の実行に必要な技能を洗い出すために意見交流の場を設定する	ゴール前からボールをかき出し、失点を減らしていきたい	点数が入ると楽しい。もっとたくさんシュートを決めたい	<ul style="list-style-type: none"> 対人パス (パス&トラップ) 2メン (パス&ラン) 1対1 (ドリブル&シュート) 2対2 とりかご
	チームの課題に合った練習をするために、子どもが考えたドリル一覧を冊子にして配付する	マンツーマンで守り、相手に思うようにプレイさせない	攻撃にはパスが重要な役割を果たすのでもっと練習したい	<ul style="list-style-type: none"> ●ディフェンス ○オフェンス ◎ボール <p>～パスを狙った場所にとおすドリル～</p> <p>※ディフェンスはボールマンにプレッシャーをかけるドリルになる</p>
つなげる	スペースをつきパスを通す方法を考えるために、ボールを持っていない人がうまくスペースをついてチームの映像を利用し、意見交流を行う	相手の動きを読んで、ねばり強くマークすることが大切だ	パスを受けるためには動いてフリーにならないといけない	<ul style="list-style-type: none"> とりかご (2対1 or 3対2) ランニングシュート 2対1 (パス&ラン)
	相手チームの特徴をつかんで、作戦につなげるように、兄弟チームで意見交流する場を設定する	失点を減らすためには、相手チームの特徴をとらえたディフェンスをしなくてはならない	失点を減らすための作戦を考える (10~12時)	<ul style="list-style-type: none"> ダイレクトにシュートを打つ ディフェンスでマイボールになってから速攻をたくさん仕掛けたい
単元のまとめとして、学年ユニホッケー大会を行う	試合に勝つためには、仲間と協力してパスをつないで点をとったり、相手のパスをとおさないように守ったりしなくてはならない	オフザボールの動きを考える (13時)	<ul style="list-style-type: none"> パスカットからの速攻練習 セットスタートからの3対2 	
	学年の大会をとおして学級で団結する楽しさを知った	学年の大会をとおして学級で団結する楽しさを知った	素早い展開の中で点数をとるためには仲間との連携が必要だ	

日 時 平成28年1月29日 (金) 第4校時
場 所 育 朋 館
授業者 馬場 健介

1 単 元 狙 え 高速カウンター (ユニホッケー:ユニバーサルスポーツII)

2 単元の構想
(1) 本単元で目指す子どもの姿

ユニホッケーに出会った子どもは、スペースを見つけてパスをつなぎ、シュートを打つことが大切だと考える。そのために、チームで考えた作戦の実行に必要な技能習得のための練習を考え、パスやトラップ、シュートに加えて、スペースに走り込む練習を行う。基本的な技術を習得した子どもは、積極的にパスをもらおうとスペースに走り込む

(2) 本実践でのねらい「問題解決に必要な技能習得の手だて」

子どもにできる喜びを味わわせたい。特にゴール型の競技では、運動が得意な子どもだけが活躍し、苦手意識をもっている子どもは、何もできずに終わってしまうことが多い。その原因としては、うまくできない自信のなさや、どう動いたらよいかかわからないことが考えられる。その問題点を子どもの手によって考えられたドリルによって技能を習得し、全員がゲームに絡むことができる展開を目指す。

これまでの研究では、問題解決的学習過程において戦術に特化した実践を行ってきた。だが、その課題として考えた作戦を実行するためのスキルが足りず、実戦に反映させることができない場面が多く見られた。その課題をクリアするために、子どもが技能習得のためのドリルを考えることに手だてを講じ、実践につなげていくことができるようにすることが、本実践の新しい取り組みである。

本単元では、ユニホッケーを行う。まず繰り返し試合を行い、必要になる技能を意見交流により明確にする。子どもは練習方法を考え、最低限度の技能を身につけるためのドリルを行う。攻撃面においては、早い動きの中で正確にパスを送ることや、パスを受けた後のリアクションをとることが重要になる。そのために、対人パスだけでなく、ディフェンスをつけたとりかごや、ランニングシュートの練習をするようになる。また、ディフェンスがついていても、それをかいくぐるために、1対1や2対1の練習を行うようになる。守備面においては、1対1やとりかごの中で、ボールをもっている相手に早い段階でプレッシャーをかけることを意識した練習を行うようになる。相手のミスを生かして、そこから攻撃に結びつけるための方法を考える。

これらの練習は、子どもがチームで考えた作戦を実行するために必要な技能を見極めて決めていく。そうすることで、問題解決に必要な技能習得を自分たちの力で高め、ドリルを繰り返す中で、できる喜びや、その技能を使ってゲームに貢献できる喜びを味わった子どもは、さらに仲間をサポートするオフザボールの動きを考えていこうとするであろう。

(3) はたらきかけと子どもの姿

出会う段階では、ユニホッケーのルールの説明を聞いた後、繰り返し試合を行う。点数を決めるためには、早い展開の中で狙った場所にパスをしたり、スペースに走り込んでパスを受けなくてはならないと気づく。子どもはパスをつなぎ、シュートを決めるための作戦を考え始める。

深める段階では、子どもはスペースをついてパスをつないだ攻撃をしたいと考える。そこで、ボールを持っていない人がうまくスペースをついて攻撃に結びつけているチームの映像を利用し、意見交流の場を設定する。狙った場所にパスをしたり、スペースに走り込んでパスをもらう動きができなくてはならないと考える。得点を取るための作戦を考え始める。また、試合を重ねていく中で子どもは、失点を減らしたいと考える。そこで、相手チームの特徴に応じて作戦を考えることができるように、兄弟チームで意見交流をする場を設定する。子どもは、試合に勝つためには相手の得意なパターンの攻撃を防いだり、ディフェンスの隙をついて攻撃することが大切だと考える。

つなげる段階では、子どもは実行委員を中心に学年ユニホッケー大会を開催したいと考える。そこで学年ホッケー大会を設定する。狙ったプレイができるようになる喜びを知った子どもは、チームにおける自分の役割を自覚し、仲間をサポートするオフザボールの動きを考えていこうとするであろう。

3 前時までの追究

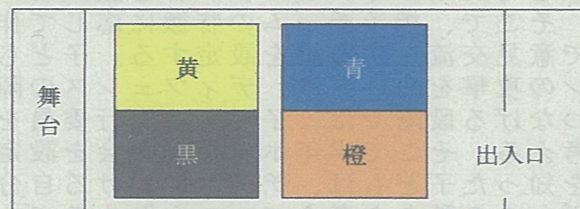
①黄チーム	
1 ISo	6 HN
失点を減らすためには役割分担をし、守備を固めながら前線に人を配置してパスを送ることが大切である	長いパスを送るための練習が必要。守備はゴール前ではなく、できるだけゴールに遠い位置で阻止したい
2 KM	7 TM
パスをつなげるためには、できるだけボールマンから遠いスペースに走り、パスを呼ぶ動きが必要	仲間と役割分担してプレイすることが大切。チャンスがあれば守備から攻撃のサポートをすることが重要
3 MK	8 HTe
守備から攻撃につなげていくためのドリルを行うことが大切。スペースを見つけて走り込む意識をつけたい	パスのつなぎをよくするために、声を出すことと、スペースに走り込みフリーになることが大切である
4 ME	9 HY
できるだけ自軍ゴール前でボールを扱う時間を減らし失点が減る。ボールをクリアすることが大切である	ボールから離れた位置にいることで、こぼれ球を拾ったり、パスコースを読むことができる
5 SK	10NM
壁パスやゴールの裏のスペースをうまく使い、パスをつなげていくと相手も守りにくくなる	密集地域でプレイすることが多いので、空いた場所ですぐドリルをしたい

③黒チーム	
1 JK	5 GN
短いパスはカットされやすいから、スペースへ長く送るパスを使っていくことがシュートにつながる	パスをつないぐために、コートを広く使って攻撃をすることが必要。そのためのドリルを考えたい
2 IY	6 KT
ボールを持ったらずぐにパスをつなぐことが大切。スペースに走り込みそこへパスを送る練習が必要である	シュート率を上げるためのパス練習やシュート練習が必要。攻守の役割分担をして試合をしたい
3 YY	7 IR
パスをつないで攻撃することが効率をよくする。オフザボールがスペースに走り込んで積極的にパスを呼ぶ	味方がパスを出しやすい場所に走り込むことが大切。そのためのドリルをチームで繰り返すべき
4 HH	8 IM
守備は、ボールマンを追うだけでなく、少し距離をおいてパスコースを止める方が速攻につながりやすい	ゴール前でパスやシュートコースに入るが大切。マイボールになったらボールをすぐに送るべき
	9 KR
	試合を有利に進めていくためには、ボールマンにプレッシャーをかけ、ミス誘発させることが大切

②青チーム	
1 SY	6 ISe
パスをした後に走ることを意識づけるためにランニングシュートなどのドリルが必要になってくる	大まかな位置どりを決めて試合をすると、パスがつながりやすい。それぞれの役割を考えてプレイする
2 TTm	7 IM
長いパスをとおしたいが、カットされる場面が多いので、ボールを持った後の切り替えをもっと早めよう	相手ゴール前にいて、パスを受けただけ早くシュートをする練習が必要である
3 TTK	8 ST
密集地域では、スティックでボールを押し引きしたりする感覚でいくと、ボールを前に運びやすい	ゴール前でボールをとった後、素早くカウンターを仕掛けるための正確なパスを身につけたい
4 HSy	9 AH
とりかごなどのドリルで、パスの方向や強さを調節する力をつけていくことがパスをつなぐうえで必要	速いボールを止めるためにとりかごなどのドリルを行っていき、基礎的な力をつけるべきである
5 HI	10HTi
相手のパスをとおさないようにするために、パスコースに入ることを意識して守ることが大切である	素早い展開の中で狙ったようにボールをつなぐために動きながらパスをし、攻撃をするドリルが必要

④橙チーム	
1 YS	6 OM
ドリブルよりもパスが有効であり、動きの中でパスをつなげるためにはドリルが必要である	まずボールマンにプレッシャーをかけていく。そこからこぼれたボールをマイボールにすることが大切
2 TS	7 HSi
パスとドリブルを組み合わせて攻撃することが大切。パスやドリブルの練習をしていくことが必要	ゴール前でパスやシュートコースに入ることが得点を阻止するために大切
3 OK	8 NA
パスとドリブルに加えて相手をだますフェイントが有効。パスはスペースに送り仲間を走らせる感覚がよい	攻守の切り替えを早くしていくことが大切。素早い展開の中でパスを前線に送ることができるようにしたい
4 MD	9 TR
攻撃に移る際には、素早く周りを見て、正確にパスをつなげるためのドリルをしていかななくてはならない	パスをつなげるために、できるだけ人のいない場所に走り込み、パスを呼ぶドリルをすることが大切
5 IY	10TM
守る位置を決めて、そこから効率よく攻撃を仕掛けることができる練習をすることが大切である	ゴール前で位置取りをし、相手のミスボールをとったり、シュートを止めることに専念したい

会場図



■ 作戦を実行するために必要なドリルに対する思い

- 第1試合 舞台側 黄チーム VS 黒チーム
入口側 青チーム VS 橙チーム
- 第2試合 舞台側 黄チーム VS 橙チーム
入口側 青チーム VS 黒チーム

4 本時の構想 (6/13)

ユニホッケーに出会った子どもは、ボールをつなぎ、シュートを決めること楽しさを感じた。だが、スティックを使ってボールをコントロールする難しさもあり、子どもはボールを取りに行くものの、密集してしまう傾向がある。次のステップとして子どもは、ボールを狙った場所にパスやシュートをする事や、スペースに走り込み、ボールをもらうことが大切であると考え、各チームでドリルを行い始めている。
本時は、素早い展開の中でパスをつないで攻めるための技能を習得するために、青2TTmが提案した2対1を行う。2対1をとおして、ボールを持っていない人が素早く前線のスペースに走り込んだり、ボールマンがパス&ランをするようになるであろう。その場でプレイすることが多かった青9AHや黄7TMは前線に走り込み、パスを受ける意識を高めるであろう。ドリル後に試合を行い、素早い展開の中でプレイすることの重要性を実感した子どもは、動きながらボールをコントロールするランニングシュートや2メンのドリルを取り入れようとする。

技能習得のための手だて	思い・考え	共通の思い	子どもの行動
<p>ディフェンスが整う前に素早くスペースを走り込み、速攻を繰り返すことができるように、青2TTmが考えた全面で2対1を行う</p> <p>振り返りの中で、速い展開の中でパスやシュートのドリルをすることが大切だと考えている青10HTiの意見を上げる</p>	前時の振り返りより		
	黄チームが実行したい作戦		青チームが実行したい作戦
	黒チームが実行したい作戦		橙チームが実行したい作戦
	作戦を実行するためにはどんなドリルが必要だろうか		
①話し合い			
仲間が考えたドリルはどんな効果があるかやってみよう			
②ドリル			
③試合			
作戦を実行するために、チームのドリルにどんな要素が入ると効果的だろう			
④振り返り			
チームで考えた作戦を実行するためには、ボールを持っていない人が空いたスペースに走り込んでパスをもらうことや、素早く次の動作につなげることが大切だ			
ドリルを更新し、作戦を実行するための方法を考える			